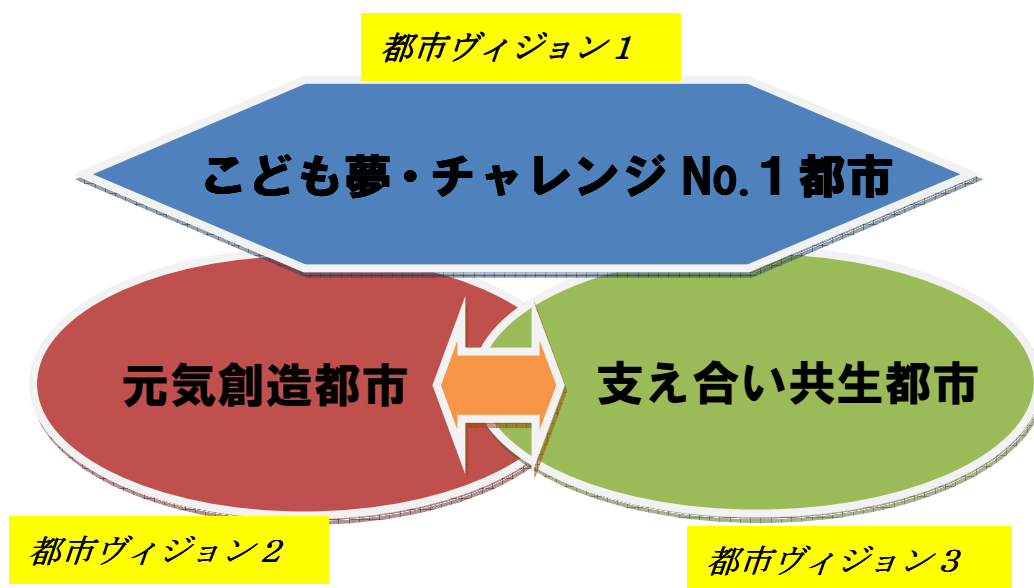


第1章 こまき市政戦略ビジョンの位置づけ

こまき市政戦略ビジョンは、第6次小牧市総合計画新基本計画において、長期的展望に立ち、市として何に機軸をおきまちづくりを進めていくのか、その基本となる考え方を示し、今後のまちづくりの指針・羅針盤とするものです。

こまき市政戦略ビジョンの機軸としては、「こども夢・チャレンジ No.1 都市」「元気創造都市」「支え合い共生都市」の3つの「都市ビジョン」を掲げます。

これら3つの機軸をどのような考え方あるいは方策に基づき実現していくのかを示した「戦略」と、戦略の具体的な実行手段の核となる重点事業を示します。



都市ビジョン1 『こども夢・チャレンジ No.1 都市』

市内外からの小牧市に対する認識が深まり、地域のブランド・イメージが向上することで、市民の愛着や誇りが醸成されている都市を目指します。

そのため、夢やチャレンジの象徴であり、次代の地域を担うこどもたちの様々なチャレンジを地域全体で応援する都市を目指します。

都市ビジョン2 『元気創造都市』

『元気創造都市』とは、市が市民の元気づくりを応援し、逆に市民の力で創り出された無数の元気の源がつながり合い「まちの元気」になること、すなわち「市民の元気」と「まちの元気」が相互に活性化し合いながら、それぞれがさらに大きな元気へと育っていくことをイメージした都市概念です。

市は、地域づくりに市民が活躍する環境を創出することで、市民のさらなる健康づくり・いきがいづくりを応援します。

また、都市の魅力を高め、交流・にぎわいを創出するとともに、地域経済を支援し、バランスの良い産業集積を今後も持続的に高めることで、さらに経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまちを目指します。

市民が様々な場面で主体的に活躍できる環境づくりを進め、市民活動や地域自治の充実拡大を通じて、市民の創意工夫によって生み出された元気がつながり合い小牧全体の元気につながる元気好循環のまち『元気創造都市』を目指します。

都市ビジョン3 『支え合い共生都市』

『支え合い共生都市』とは、同じまちで同じ時代を共に生きる市民同士がお互いに協力し合い、支え合い助け合って、安全で安心なまちをつかっていくことをイメージした都市概念です。

言うまでもなく、安全で安心なまちをつくることは市民全ての願いです。しかしながら、これを実現することは決して行政のみの力で成し得るものではありません。家庭・企業・地域など多くの市民の努力と協力があってこそ成し得るものです。

そこで、市民とともに地域単位での防災・避難訓練や防犯対策の充実などを通じて、災害に強い、犯罪の起こりにくい、安全な地域づくりを進めます。また、年々高齢化する地域にあって、歳をとっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、在宅医療・介護の体制等を充実するとともに、地域での災害時の要援護者支援体制の構築をはじめ高齢者等の見守りを強化します。

市民の力と行政の力を結び付け合わせて地域の課題を克服していく地域自治の充実を通じて、地域の支え合い助け合い活動を推進し、暮らしの安心が実現した市民の優しさがあふれる温かいまち『支え合い共生都市』を目指します。

第2章 戦略

戦略1 こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを

みんなで応援するプログラムの展開

戦略2 次世代成長産業を含むバランスの良い産業集積の形成

戦略3 在宅医療・介護、見守り体制の構築

戦略4 “元気”と“支え合い”の地域循環による

「都市の活力」と「暮らしの安心」の創造

■ 市政戦略編の見方

戦略の項目

戦略ごとに項目立てをしています。

戦略2 次世代成長産業を含む

バランスの良い産業集積の形成

『元気創造都市』の実現に向けた戦略として、次世代成長産業を含むバランスの良い産業集積を持続的に高め、さらに経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまちを目指します。

◆ 重点事業

重点事業2-1 企業立地の推進

企業立地相談のワンストップ窓口化や、本市への立地の地促進制度の充実を図るとともに、新たな工業団地の開発や収集など企業誘致の受け皿を整備した上で、積極的な誘致を中心に新規企業を誘致します。

重点事業

戦略の具体的な実行手段の核となる事業の名称、事業の概要を示しています。

事業の進捗状況を測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
次世代成長産業分野に属する新規企業の累計数	件	0					3

番号	事業名	H26～H28事業費(千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	分野別計画での位置づけ
78	企業立地推進事業 【企業立地推進課】	1,700,000				基本施策20

事業の進捗状況を測定するための指標

重点事業の目的がどの程度達成できたのかを定量的に測定するための指標と、その基準値、計画の最終年度である平成30年度の目標値を示しています。

基準値は、平成24年度の数値を示していますが、基準年次をそれ以外とする場合は、()書きで基準時点を示しています。

基準値を把握していない指標は「-」としています。

戦略を推進する重点事業の具体的な取組み

戦略を推進する重点事業の具体的な取組みとなる事業の名称、計画期間に要する事業費、年度ごとの取組みを示しています。

戦略1 こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを みんなで応援するプログラムの展開

小牧市の誇る「子育て支援が充実している」姿を一層高めるとともに、さらに高い地域の姿として“こどもの夢を育み、夢へのチャレンジをみんなで応援するまち、子どもを中心に全ての世代がつながっているまち”を目指すことで、全ての世代が暮らしやすい、あたたかい支え合いのまちづくりへとつなげていきます。

◆重点事業

重点事業1-1 (仮称)地域こども子育て条例の制定

地域でこどもの夢を育み・夢へのチャレンジを応援するまちを目指す理念を掲げるとともに、子どもを育て・育つ権利を明確化した条例を制定し、子どもをまちづくりの中心として全ての世代がつながることを明確にします。

※事業の進捗状況を測定するための指標は設定しません。

重点事業1-2 夢・チャレンジ応援制度の創設

『こども夢・チャレンジ No.1 都市』に向けた経済的基盤として、市民、団体、企業からの寄付と行政からの積立金を財源に、子どもたちの夢を育む取組みや、夢へのチャレンジを応援する制度を創設します。

事業の進捗状況を 測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
基金に積み立てられた寄付金額 ※	円	—					—

※目標値は、制度設計中のため「—」。制度創設後に設定します。

重点事業1-3 夢を育む環境の創出

『こども夢・チャレンジ No.1 都市』に向けた地域ネットワークの基盤形成のスタートとして、企業と連携したこども向けの市内産業見学会や市民のノウハウを活かした体験講座を開催するとともに、こどもの視野を広げる国際交流プログラムを実施するなど、こどもの夢を創造し、夢へのチャレンジ精神を育む環境を創出します。

事業の進捗状況を測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
夢育み事業に参加したこどもの数	人	—					2,600

番号	事業名	H26～H28 事業費(千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	分野別計画 での位置づけ
52	JFA こころのプロジェクト「夢の教室」開催事業(生涯スポーツ推進事業) 【スポーツ推進課】	9,980	実施	⇒	⇒	基本施策14 展開方向1
53	こども夢・チャレンジカップ U-12(小牧市長杯)開催事業(生涯スポーツ推進事業) 【スポーツ推進課】	1,300	実施			基本施策14 展開方向1
55	こども夢・チャレンジ事業 【文化振興課】	9,000	実施	⇒	⇒	基本施策15 展開方向1

新規

夢育み事業

教育委員会 文化振興課 スポーツ推進課

1 予算額 5,684千円

2 目的

■こども夢・チャレンジ事業

小牧山城築城450年記念事業を継承し、次代を担う子どもたちを対象とした事業を行い、小牧市や小牧山への関心を高めます。

■「夢の教室」開催事業

「夢先生」となったスポーツ選手が学校の教壇に立ち、夢や目標を持つことの素晴らしさ、夢や目標に向かって努力することの大切さ、フェアプレーや助け合いの精神を育みます。

■こども夢・チャレンジカップU-12(小牧市長杯)開催事業

サッカースクール交流大会の開催により「子どもたちの夢への挑戦」を支援し、サッカーを通じて子どもたちの育成を図ります。

3 効果

■こども夢・チャレンジ事業

子どもたちが事業に参加することにより子どもだけでなくおとなも、住んでいる小牧市やシンボルである小牧山に対する郷土愛が醸成することを期待します。

■「夢の教室」開催事業

こどもがみんなで体を動かしながら、ひとつの目標をやり遂げる大切さなどを学ぶとともに、「夢先生」となったスポーツ選手の体験談を通じて、子どもたちの健全な心の成長を期待します。

■こども夢・チャレンジカップU-12(小牧市長杯)開催事業

ジュニアサッカースクールの相互交流と技能鍛錬の場を提供することで、国際的なサッカー選手を目指す子どもたちを支援し、地域の活性化に役立つことを期待します。

4 事業概要

■こども夢・チャレンジ事業 3,000千円

○こども向け事業

小牧山史跡公園を中心にこども遊びや造形遊びを取り入れたこども向けワークショップ、中学生を対象にした「自分たちで考えるまちづくり」を継続して開催します。

○小牧戦国少女隊活動事業

市民劇の公募で集まった小牧戦国少女隊の活動を継続させるために支援します。

○舞台芸術発表事業

舞台芸術を演劇だけでなく他の分野にも幅を広げて発表の機会をつくれます。



■「夢の教室」開催事業 1,384千円

JFAこころのプロジェクト「夢の教室」(日本サッカー協会)のカリキュラムにより、様々なスポーツ選手が「夢先生」となり、「夢の教室」と題した90分の授業を学校で実施し、前半は、体を動かす「ゲームの時間」、後半は「夢先生」の体験談を語る「トークの時間」を行います。

■こども夢・チャレンジカップU-12(小牧市長杯)開催事業 1,300千円

海外有名クラブなどによる国内各地のジュニアサッカースクールを招聘し、パークアリーナ小牧サッカーグラウンドで、サッカースクールの交流大会を5月に開催します。



戦略2 次世代成長産業を含む バランスの良い産業集積の形成

『元気創造都市』の実現に向けた戦略として、次世代成長産業を含むバランスの良い産業集積を持続的に高め、さらに経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまちを目指します。

◆重点事業

重点事業2-1 企業立地の推進

企業立地相談のワンストップ窓口化や、本市への立地のインセンティブとなる魅力ある企業立地促進制度の充実を図るとともに、新たな工業団地の開発や土地利用規制の緩和、用地情報収集など企業誘致の受け皿を整備した上で、積極的な誘致活動を行い、次世代成長産業分野を中心に新規企業を誘致します。

事業の進捗状況を 測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
次世代成長産業分野に属する新規企業の累計数	件	0					3

番号	事業名	H26～H28 事業費(千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	分野別計画 での位置づけ
78	企業立地推進事業 【企業立地推進課】	1,700,000	実施	⇒	⇒	基本施策20 展開方向1

企業立地推進事業

市民産業部 商工観光課
(H26.4.1～ 地域活性化営業部 企業立地推進課)

- 1 予算額 163,600千円
- 2 目的 企業立地の推進を図ることにより、地域の活性化を推進するとともに、より安定した財政基盤を確立し、産業都市「小牧」の力を持続的に高めます。
- 3 効果 地域経済をより豊かにし、雇用力を高め、地域の活性化を図るとともに、新たな企業を誘致することにより財源の確保につながります。
- 4 事業概要

○小牧市企業立地促進補助事業 29,069千円

市内に一定規模以上の工場や研究開発施設等を立地する企業に対し、企業立地優遇制度として補助金を交付します。

	工場等新增設事業	既存工場等入居事業
補助金の額	新設又は増設をした工場等に係る土地及び家屋の固定資産評価額に8%(市内に工場等を有しない者が市内に新たに工場等を設置する場合は12%)を乗じて得た額以内	工場等に入居をするに伴い新たに取得した構築物、機械及び装置に係る償却資産の固定資産評価額に8%(市内に工場等を有しない者が新たに市内の工場等に入居をする場合は12%)を乗じて得た額以内
最高限度額	1億5,000万円	1,500万円

○小牧市内企業再投資促進補助事業 133,950千円

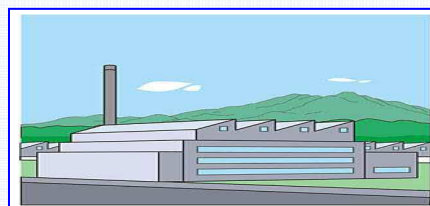
愛知県産業空洞化対策減税基金による補助制度と連携し、市内に立地する企業の再投資を支援します。

補助対象:20年以上、市内に立地する工場等を有する企業で、工場、研究所の新增設等を行う企業

対象経費:固定資産取得費用(土地を除く)

補助率:10%以内(県支援分は5%以内)

限度額:10億円(県支援分では5億円)



戦略3 在宅医療・介護、見守り体制の構築

『支え合い共生都市』の実現に向けた戦略として、高齢者が住み慣れた地域の中で安心して介護サービスや医療サービスを切れ目なく受けることができるよう、在宅医療・介護提供体制を充実するとともに、高齢者等の見守りを強化します。

◆重点事業

重点事業3-1 在宅医療の推進

医療・看護・介護等の関係機関との連携を密にして、患者本人や家族、市民への在宅医療に関する情報提供や啓発を行い、また相談窓口体制を強化して、在宅医療の利用者を増やすとともに、在宅医療・介護体制を充実します。

事業の進捗状況を測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
在宅で医療を受けている市民の数	人	286 (H25年度)					480
在宅で看取りを受けた市民の数	人	—					200

番号	事業名	H26～H28 事業費(千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	分野別計画 での位置づけ
23	在宅医療推進事業 【地域福祉課】	4,200	実施			基本施策7 展開方向1

新規

在宅医療推進事業健康福祉部 長寿介護課
(H26.4.1～ 健康福祉部 地域福祉課)

1 予算額 4,245千円

2 目的 医療や介護が必要な高齢者の多くは、自宅などの住み慣れた環境での生活を望んでいます。

このような高齢者を可能な限り地域で支えていくためには、居宅等において介護と連携がとれた医療の提供を基本とし、多職種が連携し切れ目のないサービスが提供される体制を整備していく必要があります。

啓発や研修、情報提供などを実施し、在宅医療を推進します。

3 効果 介護や医療が必要になっても、可能な限り自宅等の住み慣れた環境で安心して自分らしい生活が続けられる環境を整備することができます。

4 事業概要

○啓発事業

- ・在宅医療を紹介する冊子等の配布
- ・講演会の開催
- ・介護が必要となった際に希望することなどをまとめたエンディングノート作成とPR

○多職種連携事業

- ・介護職員、医療職員等の多職種を対象とした合同研修
- ・医師と居宅介護支援専門員との連携



戦略4 “元気”と“支え合い”の地域循環による 「都市の活力」と「暮らしの安心」の創造

まちづくりを進める上では、「都市の活力」と「暮らしの安心」の両方が必要です。

「都市の活力」とは、地域経済であり、市の財政力であり、地域を動かす市民のパワー等です。「都市の活力」があつてこそ、「暮らしの安心」を支える地域福祉の充実や市民の様々な助け合い活動が実現できます。さらに、「暮らしの安心」を支える諸活動は地域力となり、再び「都市の活力」につながっていきます。

小牧市は、「都市の活力」と「暮らしの安心」を都市運営の両輪として、双方がともに充実し、地域で上手く循環するまちを目指します。

そこで、市は市民が地域で主体的に活躍できる環境づくりを支援し、「暮らしの安心」を支える地域での支え合い助け合い活動を促進することと合わせて、さらに、それが市民の健康・いきがいつくりや地域経済の活性化にも結び付き、「都市の活力」の創造につながって循環していく仕組みづくりを進めます。

◆重点事業

重点事業4-1 (仮称)ありがとう地域ポイント制度の創設

地域循環を生み出す仕組みとして、市民の支え合い活動などに対して付与したポイントで、市の公共施設・サービスを利用したり、市内限定商品券に引き換えることができる「(仮称)ありがとう地域ポイント制度」を創設します。

事業の進捗状況を 測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
1年間に地域活動ポイントを受け取った人の数 ※	人	—					—

※目標値は制度設計中のため「—」。制度創設後に設定します。

重点事業4-2 市内限定商品券の流通拡大

地域経済、特に市内中小商業・サービス業の活性化を支援するため、市内限定商品券の流通インフラを構築・維持し、地域循環の経済的トリガーとして、(仮称)ありがとう地域ポイント制度をはじめ、公共セクションにおいて様々な機会を捉えて市内限定商品券を積極的に活用します。

事業の進捗状況を測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
市内でプレミアム商品券が使える店舗数	店	588					633

番号	事業名	H26～H28 事業費(千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	分野別計画での位置づけ
76	こまきプレミアム商品券発行助成事業 【商工振興課】	366,000	実施	⇒	⇒	基本施策20 展開方向2

重点事業4-3 地域協議会の設立による地域活動の活性化

地域循環の力を、経済活力に加えて地域の連携に結び付け、地域の絆を強化し、地域活動を活性化し、支え合い助け合いの地域づくりを推進するため、小学校区を基本単位として、区長をはじめ民生児童委員や保健連絡員、子ども会や老人会などの横断的な連携が機能する新しいコミュニティ組織として、「地域協議会」を創設します。

事業の進捗状況を測定するための指標	単位	基準値	H26	H27	H28	H29	目標値
							H30
地域協議会が組織された数	組織	—					16

番号	事業名	H26～H28 事業費(千円)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	分野別計画での位置づけ
109	地域協議会創設事業 【協働推進課】	17,600	協議会 設立	⇒	⇒	基本施策30 展開方向2

こまきプレミアム商品券発行助成事業

市民産業部 商工観光課
(H26.4.1～ 地域活性化営業部 商工振興課)

- 1 予算額 122,000千円
- 2 目的 「10%プレミアム商品券」の発行に対して補助を行い、市民生活を支援するとともに、地域経済の活性化を図ります。
- 3 効果 市民税1%分≒1億円の予算を市民に還元し、10億円以上の経済効果を生みます。
- 4 事業概要

平成23年度から小牧商工会議所と連携して実施している「地域限定商品券事業」を引き続き実施し、総額11億円分のプレミアム商品券を発行します。

また、商品券の利用は、魅力ある商品・サービス、並びに生活必需品を提供する店舗に多く活用されることから、一店逸品運動の実施とその広報活動を支援しながら、商品券の利用価値を高めていきます。



地域協議会創設事業

市長公室 協働推進課

1 予算額 2,640千円

2 目的

近年の都市化の進展やライフスタイル、価値観の多様化などを要因とする地域の“絆力”の低下や少子高齢化の進行に伴う様々な地域課題に対して、区(自治会)やその他の地域団体、地域住民の方々が連携協力し、地域づくりを補完する新しいコミュニティ組織として「地域協議会」を創設し、安心して暮らし続けられる地域づくりを目指します。

3 効果

- 意識高揚 ～誇りと愛着のある地域づくり～
- 相互補完 ～相乗効果を生み出す地域づくり～
- 課題解決 ～自ら取り組む特性を活かした地域づくり～

4 事業概要

設立された地域協議会が地域の様々な課題解決に向け、継続して、安定的に取り組めるように地域協議会制度方針(平成25年6月)に基づいて、財政支援や市職員による人的支援などを行います。

なお、未設立の地区に対しては、勉強会や講演会等を企画し、機運醸成を図ります。また、地域協議会市民会議を継続し、必要に応じて制度の改善等を行います。



